コラム

立命館大学客員教授・エコ・テクノロジー研究センター長
TAKEDA Nobuo
武田 信生



プロフィール
京都大学教授、廃棄物学会会長などを歴任
現在、京都大学名誉教授、中央環境審議会臨時委員
NPO法人資源リサイクルシステムセンター理事長

国際化の流れの中で

二人の日本人科学者がノーベル化学賞を受賞、「はやぶさ」が小惑星イトカワの鉱物を採取して持ち帰っていたことが判明、ジュネーブ国際音楽コンクールピアノ部門で二十三歳の日本人ピアニストが優勝、など、とても明るい、元気の出るニュースが続きました。他にもスポーツ、芸術、技術などなど、世界に通用する、というより世界をリードするような仕事をしている日本人がたくさんおられるに違いありません。しかし一方で、若者が海外に出たがらない、というような心配な傾向が見えてきているのが現実だそうです。「龍馬はどこへ行った。坂の上の雲はどうなったのか？」

好むと好まざるとにかかわらず、国際化は避けようもないようであります。情報や交通の手段がいまのように容易化され、高速化されてくると、頑なに鎖国状態を維持するには大へんなエネルギーを必要としそうです。MY国やNK国のように鎖国に熱心な国の情報でも、何とはなしに漏れてきてしまいます。さてまた、環境や資源に関しても鎖国状態は不可能です。大気に国境がないことは当然としても、水の汚染も国境を越えてやってきますし、水産資源などのことを考えると隣国での汚染は自国の食糧に影響を及ぼします。総じて己の国の中だけ綺麗にしておくことはできませんし、いろいろな資源を使うようになった現代社会の生活では、孤立的に資源を使っていくことは不可能です。製品を売る市場も資源を調達する市場も労働市場も国際化していくのは自然の流れのようなもので、この流れに抗うことは無理なようであります。

そうであれば、そのような国際化の中にうまく生き残っていくことを考えなければなりません。私たちの世代では英語をうまく話せなくても何とかなりましたが、これからは英語＋1, 2か国語くらいが自由に操れなければ、うまく渡っていけなくなるような気がします。しかし、もっと大事なことがあると思います。語学よりも大事なこと。歴史、地理、社会、文化、宗教などを理解することです。

これは説明するまでもないことだと思います。最近の日本の稚拙な外交のあり方を新聞やテレビで見れば一目了然というものでしょう。「読み・書き・そろばん」を疎かにすることは国を滅ぼすことに繋がりかねません。